

25A02

日本の染織探訪〜歴史と技〜

日本の染織探訪〜歴史と技〜

関連するSDGs:



申込フォーム

スマートフォンからも
お申込みできます

期 間: 2025年7/10(木)・7/17(木)7/24(木) [全3回]

期 所: 尚綱学院大学長町サテライトプラザ

〒982-0011 仙台市太白区長町5-3-1

たいはつくるイオプラザ1階

時 間: 13:30~15:00

対 象 者: テーマに興味・関心があり学んでみたいと思っている方。

持 ち 物: 筆記用具

修了要件: 80%以上出席した方に修了証を発行予定です。

定 員: 15名

最少催行人数: 8名

受 講 料: 3,900円

受講生へのメッセージ

★☆☆ (レベル1: 初心者~初級者)

日々の生活で布や衣服に触れない日はありません。それらは単なる消費する商品ではありません。長い歴史の中で、人が知恵と工夫から生み出したものであり、物語があり、日本で育まれた染織文化があります。実物に触れ、布を見る眼を養い、その魅力に共感していただけたら嬉しいです。

| 日程 | テーマ・内容 | 講 師 |
|-------------|---|---|
| 第1回 7/10 | <p>テーマ: 自然素材からの糸作り~草皮・樹皮・繭</p> <p>内容: 人は生活周辺の自然素材から繊維を採取し、糸作りをする工夫をして来ました。古代からある草皮や樹皮繊維、蚕が作る繭からの糸作りを知ること、人の技の素晴らしさと、自然からの恩恵を感じ、できあがった布への愛着が生まれます。古代からある原始織物の技は、現代の日本各地の伝統産業の礎にもなっています。地場産業とのつながりもお話しします。糸をどう作るか。糸のデザインの基礎がわかる内容です。</p> | <p>玉田 真紀</p> <p>尚綱学院大学 名誉教授、 服飾文化学会会長</p> |
| 第2回 7/17 | <p>テーマ: 日本で慈しんだ絹文化~奈良から近現代まで</p> <p>内容: 現代人には馴染みが薄い絹ですが、養蚕と生糸の生産は、日本にとって古代から昭和初期まで、重要な産業でした。消滅させてはならない「小石丸」は皇居内で引き継がれています。絹は、奈良から平安の公家文化で、鎌倉から室町の武家文化で、江戸の武家や商人文化で常用され、明治に入ると、生糸を海外輸出するほど栄えた歴史があります。和装に絹を思い描く人も多く、その染織の豊富さと技術の高さは、現代の工房にも引き継がれています。名物裂(きれ)など、海外貿易との深いつながりもあります。国産が激減し、継続の危機に直面している絹文化の歴史について解説します。</p> |  |
| 第3回 7/24 | <p>テーマ: 町人文化から花開いた友禅染と展開</p> <p>内容: 布に色や柄を付ける方法には2つ、先染と後染があります。その技法の見分け方について学んだ上で、ここでは、後染の友禅染について、江戸時代に贅沢を禁止された町人の知恵から生まれた発祥の物語、さらに友禅文様の画題の多彩さと様々な意味についてお話しします。文様には、日本の風景や行事、動植物、文物が表現されています。また、糊置き多色染の展開として、筒描き染やモスリン友禅、注染なども解説します。</p> | |